

会議の名称	第12回子ども・子育て会議		
開催日時	平成30年2月23日(金)	開会	13時30分
		閉会	15時30分
開催場所	岩出市総合保健福祉センター		
議長(委員長・会長)の氏名	桑原義登委員		
出席者(委員)の氏名	岩橋美奈委員、中内督貴委員、帽子律子委員、土居岐久代委員、津村吉輝委員、土生川覚弥委員、福田朱実委員、亀岡加津美委員、村田実委員、中谷博昭委員、桑原義登委員、金川めぐみ委員、山本正人委員、秦野吉弘委員		
会議事項	議題	会議結果	
	<ul style="list-style-type: none"> ① 子ども・子育て会議について ② 市町村子ども・子育て支援事業計画に関する中間年の見直しについて <ul style="list-style-type: none"> ➤ 特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の量の見込みと確保策の変更について ➤ 子ども・子育て支援事業の量の見込みと確保策の変更について 	「会議の経過」のとおり	

会議の経過

議題・決定又は確認事項等
<p>【開会】 13時00分</p> <p>【委嘱状交付式】</p> <p>【市長あいさつ】</p> <p>【委員自己紹介、事務局紹介】 各委員自己紹介、事務局職員紹介</p> <p>【会長、副会長選出】 委員の互選により、会長に桑原義登委員、副会長に金川めぐみ委員が選出され承認となる。</p> <p>【議事概要】 ＜事務局＞ 議案①子ども・子育て会議について説明</p> <p>質問、意見なし</p> <p>議案②市町村子ども・子育て支援事業計画に関する中間年の見直しについて</p> <p>➤ 特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の量の見込みと確保策の変更について</p> <p>＜質問① 委員A＞ 資料5ページの学校教育・保育施設の量の見込みと実績状況報告の中で、公立保育所では1号の実績がない。 法において、幼保一元化、質の高い保育の提供が言われている中で、公的機関は率先して法の趣旨を行うことが必要だと思うが、岩出市の公立保育所は幼保連携型認定こども園に移行する計画はないのか。また、公立保育所において幼児教育をどのように行っているのか。市の考えを聞かせて欲しい。</p> <p>＜回答① 事務局＞ 現状説明になるが、年度途中で待機児童が発生し、また保育士不足等の理由で定員を増やすことができない中、同定員内で1号を受け入れることで2号、3</p>

号の待機児童がさらに増加することが考えられるということで現在まで移行は行っていない。

ただし、私立保育園が国の推進する幼保連携型認定こども園に移行する中で、公立についても今後検討して行きたいと考える。

公立保育所における幼児教育については、現行の保育所保育指針においても教育についての部分が盛り込まれていること、職員についてもほぼ全員幼稚園教諭の免許を取得していることから、認定こども園への移行はスムーズに行えると考えているが、幼稚園が行っている水準の幼児教育はすぐに実施は出来ない。

<意見① 委員B>

和歌山県教育委員会において、小学校における課題として、不登校などを考えると、幼児期からの対応が重要で学校教育と幼児教育の関係、繋がりが必要と考えており、一体的に行う事を検討しており、今後その方向になると思われる。

<意見② 委員A>

幼児教育が大事というラインになり、ヨーロッパでは幼児教育を義務化している。国も予算の関係で実現は難しいが、そのような大きな流れで動いている。

<意見③ 委員C>

市は3号の確保を増やしたいということであるが、気になる点が3点ある。

1. 保育園を落ちてほっとしている人が増加している。本当は育児をしたいが、育休手当の関係で保育所入所を希望していたが、落ちたことで堂々と職場に育休延長を願いできることができる。
2. M字カーブが緩やかになり、就労しつつ預ける環境が整ってきたと言うが、30代が結婚していないだけではないか。
3. 保育士不足が進んでいる。ある人材紹介所から、うちの紹介所はどこより多くの人を抱えているので希望にかなう人を紹介できると連絡があった。
子どもをしっかりサポートできる保育士が必要である。質より数を考えることはいかなものかと思う。

<意見④ 委員A>

県議会で、在宅育児へのサポートをしてはどうかとの意見が出ていた。子育て支援法の趣旨から考えて、法は幼保一元だけでなく地域の子育て支援の2本立てで出来ていると思う。

<質問② 委員D>

保育所等の推計、確保量を決める時に保育士の数は大きな問題だと思うがこれらを勘案して出しているのか。

<回答② 事務局>

施設は空き教室があるが、問題点は保育士の確保です。

今回の計画変更に伴う量の見込みと確保量は現状の保育士の確保を見込んだ上での限界値だと考えている。この見込み量及び確保数でも絶対に待機児童が発生しないとは言えない現状である。

<質問③ 委員E>

かつて、岩出市は、保育所入所審査会において、本当に保育が必要な人をポイント制で優先順位をつけて入所調整しながら施設との係わりを見ながら行ってきたが、現在実績が一気に上がっている中で保育の必要性は十分な審査が行われているのか。

<回答③ 事務局>

国の通知でも保育の必要性の基準を市町村単位で細かく決定するように示されている。書類審査では、以前に比べかなり細かい点数をつけて審査している。あくまでも書類審査であり、家庭の実態が見えにくい事はあるが、保育の必要性の高い方からの利用ができていると考えている。

▶ 子ども・子育て支援事業の量の見込みと確保策の変更について
質問、意見なし

議案③その他

<質問① 委員B>

ファミリー・サポートセンター事業の実績はどうか。

<回答① 事務局>

会員数、利用数ともに増加している。

<質問② 委員F>

紀の川市で(株)デュプロさんが保育所を始めた。企業内だけでなく地域にも開放しているが、岩出市ではどうか

<回答② 事務局>

デュプロさんは、企業主導型保育施設で、従業員分と地域分で行っています。市の認可で、従業員と市の地域の子どもを保育する事が出来るが、つくしさんのように大きな施設ではできるが、なかなかないのが現状です。

岩出市では、子育て応援企業登録事業として、子育てを応援する事業所を市で登録し、ステッカーを配布したり、市のウェブサイトで紹介したりしているが、今後、登録企業を中心に訪問し、足りない部分を担ってもらうようアプローチ

していくことは可能と考えます。

<意見① 委員A>

市から配慮いただき、事業所内保育所を地域に開放しているが、日曜保育も行っている。職場のやりくりは難しいが、紀の川市の方でも勤務地が岩出市ならOKで、徐々に利用者は増加している。

日曜保育の趣旨は、岩出市は、離婚率が高い。その中でほとんど女性が子育てを行っている。国の統計では、大多数が正規職員でない。パートで一番高い給与は夜間や休日であり、そこで働く方々が一番困るのが休日や夜間の保育です。そこで日曜保育の必要性を感じ受け入れていますのでどんどん活用して欲しい。

【その他】

なし

【閉会】

15時30分閉会